

《研究報告》

基礎看護学実習でのコミュニケーション冊子の有用性と課題

阿部 智美¹⁾, 石田 萌¹⁾, 幸山 靖子¹⁾

要旨:本研究の目的は、基礎看護学実習での学生のコミュニケーション状況を把握し、実習でのコミュニケーションに関する冊子の有用性や課題を検討することである。実習でのコミュニケーションの例と説明を記載した冊子を作成し、基礎看護学実習前に配布した。実習終了後、質問紙調査を行った。73名に質問紙を配布し、47名から回答を得た。学生の自由記述から、冊子について良かったところでは【例の記載】【読みやすさ】【説明の記載】等が得られ、コミュニケーションの例と説明を記載した冊子は、実習で役立つと考える。しかし、基礎看護学実習での学生は、緊張が強く、状況に応じたコミュニケーションをとることは難しく、今後、他の教育方法も取り入れることが必要である。

キーワード:看護学生, 基礎看護学実習, コミュニケーション, 冊子

I. はじめに

看護のコミュニケーションは、患者や家族との関係を形成し、援助を行うためには不可欠で、医療チームや多職種との連携においても必要なものである。そのため、看護学生にとってコミュニケーション能力は、看護系人材(看護職)として求められる基本的な資質・能力として重要とされている¹⁾。しかし、看護学生の臨地実習でのコミュニケーションに関する課題が指摘されており²⁾、特に基礎看護学実習では、患者とのコミュニケーションのとり方が分からず、戸惑いを感じていることが報告されている^{2),3)}。

コミュニケーションスキルのトレーニング方法の1つにソーシャルスキルトレーニング(social skills training; 以下, SSTと略記)がある。SSTは精神疾患を持つ対象者以外に、一般の学校教育において抑うつ予防やストレス反応の低減といったメンタルヘルス向上を図る目的で用いられている⁴⁾。教示されるソーシャルスキルには、場面に応じた具体的なスキルがその説明と共に紹介されている^{4),5)}。

本研究では、SSTで教示されているような具体的なスキルの紹介は、基礎看護学実習のコミュニケーション

ン教育に有用ではないかと考えた。看護学生は、初めての实習では具体的なコミュニケーションのとり方がわからず、戸惑うことが多い。そこで、実習場面に応じた具体的なコミュニケーションの例と説明を記載した冊子を作成し、実習前に配布することにした。冊子を配布することによって、学生が実習場面で戸惑いを感じたときに読み返すことができ、有用ではないかと考えた。看護基礎教育では、実習での具体的なコミュニケーション方法を紹介した書籍等はみられる^{6),7)}。しかし、それらについて学生が捉える有用性や課題についての報告はあまり見当たらない。学生から実習でのコミュニケーション状況を尋ね、冊子についての意見や感想を把握することは、看護のコミュニケーション教育をより効果的なものにする資料として役立つと考えた。本研究の目的は、基礎看護学実習での学生のコミュニケーション状況を把握し、配布したコミュニケーション冊子の有用性と課題を検討することである。

II. 冊子「初めての实習でのコミュニケーション」の構成と主な内容

実習でのコミュニケーションに関する冊子「初め

1) 弘前学院大学看護学部

連絡先: 阿部智美 〒036-8231 弘前市稔町20-7

TEL: 0172-31-7100, FAX: 0172-31-7101, E-mail: tomomi@hirogku-u.ac.jp

受理: 2019年2月26日

表1 冊子「初めての実習でのコミュニケーション」の目次

1. はじめに	
2. コミュニケーション方法の紹介	
1) 患者さんとのコミュニケーション	
(1) 挨拶	2
(2) コミュニケーション	3
2) 実習場でのコミュニケーション	
(1) 挨拶	4
(2) 報告・連絡・相談	5
(3) カンファレンス	6
3. その他	
1) 実習でのマナー	7
2) 記録	8
4. 練習してみましょう	8
5. おわりに	8

注) 下線の項目について良かったところ、要望を自由記述で尋ねた

ての実習でのコミュニケーション」を作成した。その目次を表1に示す。冊子の構成は「1. はじめに」「2. コミュニケーション方法の紹介」「3. その他」「4. 練習してみましょう」「5. おわりに」とした。冊子はコミュニケーション場面ごとに目的や注意点を説明し、具体的なコミュニケーションの例は色を変えて示す等、読みやすいように工夫した。冊子は表紙や目次を含め9頁である。

構成ごとの主な内容は、「1. はじめに」では、冊子の目的と活用方法を簡潔に述べた。「2. コミュニケーション方法の紹介」では、「患者さんとのコミュニケーション」と「実習場でのコミュニケーション」に分け、看護学生が実習で経験する場面を取り上げて、それぞれの場面での目的や注意点、コミュニケーションの例を記載した。「3. その他」では、「実習でのマナー」「記録」について記載した。「実習でのマナー」は、移動時や病棟や控室等で学生が経験する場面の注意点を記載した。「記録」は、記録の目的と注意点を簡潔に記載した。「4. 練習してみましょう」では、前日に実習目標を教員に相談するとき、実際に担当看護師へ発表するように伝えてみる等の工夫を紹介した。「5. おわりに」では、相手の立場を考えたコミュニケーションやグループメンバーとの協力について記載した。

冊子の中心となる「2. コミュニケーション方法の紹介」については、「患者さんとのコミュニケーション」と「実習場でのコミュニケーション」に分けて、下記の内容を記載した。「患者さんとのコミュニケーション」は、「挨拶」「コミュニケーション」の場面を取り

上げた。「挨拶」では、受け持ち患者への最初の挨拶や実習終了時の挨拶の例を示した。「コミュニケーション」では、コミュニケーションを始める・終わるとき、患者との話題の例を示した。「実習場でのコミュニケーション」は、「挨拶」「報告・連絡・相談」「カンファレンス」の場面を取り上げた。「挨拶」では、朝の挨拶や休憩に入る前の挨拶の例等、「報告・連絡・相談」では、実習目標の発表、相談、報告の仕方の例を示した。「カンファレンス」では、発表の準備やカンファレンスの進行の例等を示した。

Ⅲ. 研究方法

1. 対象者

A大学看護学部の基礎看護学実習Iを受講した学生(73名)

2. 調査期間

2018年2月10日～2月26日

3. データ収集方法

基礎看護学実習Iの開始前に、冊子「初めての実習でのコミュニケーション」を配布し、冊子の内容について説明した。基礎看護学実習I終了後、学生が集合した際に、説明書と無記名自記式質問紙を配布し、調査への協力を求めた。質問紙の回収は、一定期間設置する回収箱へ提出とした。

4. 調査内容

下記の内容について自由記述で回答を求めた。

1) 実習でのコミュニケーション状況について:「患者さんとのコミュニケーション」(挨拶, コミュニケーション等)と「実習場でのコミュニケーション」(挨拶, 実習目標の発表, 実習終了時の報告等)について、それぞれの「できたところ」「できなかったところ」を尋ねた。

2) 冊子「初めての実習でのコミュニケーション」について:「患者さんとのコミュニケーション」と「実習場でのコミュニケーション」について、それぞれの「良かったところ」「要望」を尋ねた。

5. 分析方法

回収された質問紙の自由記述を、質問項目ごとに、意味内容の類似性から判断し、カテゴリーにまとめた。「患者さんとのコミュニケーション」については「できたところ」と「できなかったところ」で共通したカテゴリー、相違がみられたカテゴリーを検討した。「実

表2 患者さんとのコミュニケーションに関する自由記述

	カテゴリー	サブカテゴリー	記述内容の例
できたところ	コミュニケーションスキル (26)	非言語的表現 (13)	目線, 笑顔を気をつけて話すことができた
		共感・傾聴 (8)	患者の話をしっかり聞くことができた
		患者に合わせた話し方 (4)	相手のことを考え, ゆっくり話したりすることができた
		メッセージの読み取り (1)	患者の返答の言葉が短かったときに, 伝えたいことを読みとれた
	意図的な関わり (13)	情報収集 (10)	今の入院生活で困っていること, 入院前の生活で変わったところを聞くことができた
		関係形成 (2)	会話を通して, 人間関係の成立を多少できたと思える部分があった
		対応 (1)	丁寧な対応
	会話のやりとり (11)	話題 (6)	話題を考えられた
		話を広げる (3)	患者からの返答を聞いて, さらに話を広げること
		質問 (2)	聞いた質問を上手く活用できた
挨拶 (6)	要点を押さえた挨拶 (4)	挨拶をしっかりできた	
	場面ごとの挨拶 (1)	時刻にあった挨拶	
	明瞭な挨拶 (1)	聞こえるように挨拶	
できなかったところ	会話のやりとり (20)	話を広げる (9)	会話を広げられなかった
		質問 (5)	質問したが患者さんにとってあまり好まない質問をしてしまった
		話題 (4)	うまく話題を出せなかった
		話を続ける (2)	コミュニケーションを続けること
	コミュニケーションスキル (14)	非言語的表現 (4)	身振りを使用することができなかった
		メッセージの読み取り (3)	何を言っているのか分からず, 受けとることができなかった
		話の終え方 (3)	帰る時間になって話をおわらせようとしてもうまくできなかった
		共感・傾聴 (2)	援助をする為に必要な患者さんの気持ちをさくこと
	意図的な関わり (8)	患者に合わせた話し方 (2)	患者さんに合わせて会話できなかった
		ネガティブな言動への対応 (4)	患者のネガティブな発言にどう答えたらいいか分からなかった
		情報収集 (2)	治療, 援助に関する情報を引き出すこと
	自然な態度 (2)	対応 (2)	コミュニケーションにおいて対応する力がなかった
		自然な態度 (2)	初日で緊張して上手く話せなかった
	挨拶 (1)	挨拶 (1)	体調を尋ねる挨拶 (1)

習場でのコミュニケーション」についても同様に検討した。また, 冊子の「患者さんとのコミュニケーション」と「実習場でのコミュニケーション」については, 「良かったところ」で共通したカテゴリー, 相違がみられたカテゴリーを検討した。「要望」についても同様に検討した。その他, 質問に沿わない回答, 「特になし」「なし」の回答は分析から外した。

6. 倫理的配慮

対象者には研究目的, 方法, 倫理的配慮について説明書と口頭で説明し, 同意が得られた場合に質問紙へ回答することを伝え, 質問紙の提出をもって研究協力への同意の確認とした。なお, 研究の実施にあたって研究者が所属する大学の倫理審査委員会で承認を得て行った。

IV. 結果

対象者73名に質問紙を配布し, 47名から回答が得られた(有効回収率64.4%)。47名を分析対象とした(有効回答率100%)。カテゴリーを【 】で示し, 以下に

説明する。

1. 実習でのコミュニケーション状況に関する自由記述 (表2, 3)

「患者さんとのコミュニケーション」では, できたところは44名から56コード, 4つのカテゴリー【コミュニケーションスキル】【意図的な関わり】【会話のやりとり】【挨拶】が得られた。一方, できなかったところは42名から45コード, 5つのカテゴリー【会話のやりとり】【コミュニケーションスキル】【意図的な関わり】【自然な態度】【挨拶】が得られた。「患者さんとのコミュニケーション」については, できたところ, できなかったところで共通したカテゴリーは【コミュニケーションスキル】【意図的な関わり】【会話のやりとり】【挨拶】であった。一方, 相違がみられたカテゴリーは, できなかったところで【自然な態度】であった。

「実習場でのコミュニケーション」では, できたところは39名から50コード, 5つのカテゴリー【挨拶】【報告】【相談】【質問への回答】【積極的な態度】が得られた。できなかったところは39名から40コード, 5つのカテ

表3 実習場でのコミュニケーションに関する自由記述

	カテゴリー	サブカテゴリー	記述内容の例
できたところ	挨拶 (23)	要点を押さえた挨拶 (10)	挨拶をしかりできた
		明瞭な挨拶 (7)	大きな声で挨拶できた
		場面ごとの挨拶 (6)	各場面での挨拶をちゃんとすることができた
	報告 (20)	要点を押さえた報告 (9)	発表や報告もしかりすることができた
		明確な報告 (4)	学びをメモしてわかりやすく担当看護師に伝えることができた
		落ち着いた報告 (3)	言葉につまらずにスムーズに行えた
		具体的な報告 (2)	具体的に話すことができた
	相談 (5)	考えを伝えた報告 (2)	自分の判断を伝えることができた
		自分からの相談 (3)	分からないことは聞き質問することができた
	質問への回答 (1)	質問への回答 (1)	分からないことはしっかり聞いた
積極的な態度 (1)	タイムリーな相談 (1)	分からないことはすぐ聞いた	
できなかったところ	報告 (28)	質問への回答 (1)	質問に対する受け答え
		積極的な態度 (1)	積極的に行えた
		要点を押さえた報告 (7)	自分の考えをきちんとまとめて発表し伝えることができなかった
		具体的な報告 (6)	報告が不十分だったところがあった
		落ち着いた報告 (6)	緊張して声が出なかったり、詰まったりしてしまった
		タイミングのよい報告 (4)	忙しそうときに看護師に声をかけてしまうことがあった
	挨拶 (5)	明瞭な報告 (4)	声小さかったと思う
		明確な報告 (1)	明確に報告を行えるようにしたい
		タイミングのよい挨拶 (2)	昼食後のナースステーションでの挨拶 (タイミングが難しい)
		落ち着いた挨拶 (1)	落ち着きがなく、文章になっていなかった
相談 (3)	明瞭な挨拶 (1)	声小さくて堂々と言うことができなかった	
	明確な挨拶 (1)	挨拶時に、担当患者が誰なのかを伝えることを忘れてしまった	
相談 (3)	十分な相談 (2)	もっと患者の援助について相談できたら良かった	
積極的な態度 (3)	自分からの相談 (1)	相談することができなかった	
質問への回答 (1)	積極的な態度 (3)	積極的な行動	
	質問への回答 (1)	看護師からの看護についての質問に答えることができなかった	

ゴリー【報告】【挨拶】【相談】【積極的な態度】【質問への回答】が得られた。「実習場でのコミュニケーション」については、できたところ、できなかったところのカテゴリーは共通していた。

2. 冊子「初めての実習でのコミュニケーション」に関する自由記述 (表4, 5)

冊子の「患者さんとのコミュニケーション」について、良かったところは23名から26コード、4つのカテゴリー【例の記載】【読みやすさ】【説明の記載】【役立つ】が得られた。一方、要望は7名から7コード、5つのカテゴリー【これからも必要】【話題に関する記載】【援助に関する記載】【言語障害に関する記載】【読みやすさ】が得られた。

冊子の「実習場でのコミュニケーション」について、良かったところは21名から24コード、4つのカテゴリー【例の記載】【読みやすさ】【役立つ】【説明の記載】が得られた。要望は4名から4コード、3つのカテゴリー【これからも必要】【報告例の記載】【NG例の記載】が得られた。

冊子の「患者さんとのコミュニケーション」「実習

場でのコミュニケーション」で、良かったところで共通したカテゴリーは【例の記載】【読みやすさ】【説明の記載】【役立つ】であった。一方、要望で共通したカテゴリーは【これからも必要】であった。相違がみられたカテゴリーは「患者さんとのコミュニケーション」では【話題に関する記載】【援助に関する記載】【言語障害に関する記載】【読みやすさ】で、「実習場でのコミュニケーション」では【報告例の記載】【NG例の記載】であった。

V. 考 察

1. 学生の実習でのコミュニケーション状況について
「患者さんとのコミュニケーション」について、できたところ、できなかったところ共通したカテゴリーは【コミュニケーションスキル】【意図的な関わり】【会話のやりとり】【挨拶】であった。できなかったところでは【会話のやりとり】で、話を広げることと回答する学生が多かった。先行研究においても、学生は一つの話について会話を続けることができないこと

表4 冊子の「患者さんとのコミュニケーション」に関する自由記述

	カテゴリー	サブカテゴリー	記述内容の例
良かったところ	例の記載 (12)	挨拶例の記載 (7)	挨拶の仕方の例が書いてあること
		言葉づかいの記載 (3)	どのような話し方をすればよいか書いてあったところ
		話題例の記載 (2)	話題の例がわかりやすく書いてあったので、それをもとに話すことができた
	読みやすさ (7)	読みやすさ (3)	カラーで色別で見やすい。各々でフォントも違ってよかった
		場面ごとの記載 (2)	具体例が場面ごとに区切られている
	流れごとの記載 (2)	コミュニケーションをとるまでの流れが分かりやすかった	
説明の記載 (6)	説明の記載 (6)	どこに気をつけてコミュニケーションをするのか分かりやすかった	
役立つ (1)	役立つ (1)	初めてでも何とわからなかったのですが役に立った	
要望	これからも必要 (2)	これからも必要 (2)	今回、本当にお世話になったので、これからもほしい
	話題に関する記載 (2)	話題に関する記載 (2)	話題の展開の仕方
	援助に関する記載 (1)	援助に関する記載 (1)	援助に関連したコミュニケーションの進め方
	言語障害に関する記載 (1)	言語障害に関する記載 (1)	構音障害をもつ人との話し方や文字盤の人との話し方など注意すべき点
	読みやすさ (1)	読みやすさ (1)	もっと字を大きくしてほしい

表5 冊子の「実習場でのコミュニケーション」に関する自由記述

	カテゴリー	サブカテゴリー	記述内容の例
良かったところ	例の記載 (16)	挨拶例の記載 (8)	挨拶の例が一つ一つ書かれていてわかりやすかった
		報告例の記載 (3)	報告の例文が書かれてあるため、看護師に伝えやすかった
		例の記載 (2)	例が記載してあって参考になった
		言葉づかいの記載 (2)	どのような言葉を用いるべきなのか悩んでいるときに、すぐに確認できた
		カンファレンスの仕方 (1)	カンファレンスの仕方
	読みやすさ (4)	読みやすさ (2)	色付きの文があって大切な所がよくわかった
場面ごとの記載 (1)	場面ごとの記載 (1)	具体例が場面ごとに区切られている	
流れごとの記載 (1)	流れごとの記載 (1)	挨拶や目標の発表の仕方など、一連の流れに沿って記載されていてとてもみやすい	
役立つ (3)	役立つ (3)	実習にとっても役立つ	
説明の記載 (1)	説明の記載 (1)	丁寧に説明が書かれていた	
要望	これからも必要 (2)	これからも必要 (2)	すごい助かったのでこれからも欲しい
	報告例の記載 (1)	報告例の記載 (1)	報告のときに内容をどのように報告すればいいか悩んだので例文があると助かる
	NG例の記載 (1)	NG例の記載 (1)	NG例もあれば学生は気をつける

が報告されている⁸⁾。しかし、その一方で、学生は意図や目的を持ってコミュニケーションを図ろうとしていることも報告されている⁹⁾。本研究においても、【コミュニケーションスキル】では非言語的表現や共感・傾聴等、【意図的な関わり】では情報収集等を意識し、取り組もうとしていることが伺えた。

「実習場でのコミュニケーション」について、できたところ、できなかったところで共通したカテゴリーは【挨拶】【報告】【相談】【質問への回答】【積極的な態度】であった。【挨拶】は要点を押さえて明瞭にできたと回答するが、【報告】は要点を押さえて具体的にできなかったと回答する傾向がみられた。先行研究では、看護学生は専門用語の使用、決められた時間に報告できる等を含んだ基本的報告スキルに対する自己評価は高い傾向にあるが、自分の考えを伝える、わからない時に聞くといった能動的報告スキルに関しては自己評価が低い傾向にあることが報告されている¹⁰⁾。

本研究では、学生は考えをまとめ、具体的に報告することが難しいとの回答があった。適切な報告をするためには、様々な知識や判断力が必要となる。今回、作成した冊子のような定型的な報告例を学習する以外に、実習経験を重ね、知識や判断力を高めて、コミュニケーション能力を向上させていく必要があると考える。その他に、落ち着いた【報告】ができなかった、【積極的な態度】がとれなかったとの回答がみられた。学生は実習での緊張も強いのではないかと推察される。

2. 冊子「初めての実習でのコミュニケーション」の有用性と課題について

冊子の有用性については、実習場面ごとにコミュニケーションの例や説明が記載された冊子は、学生にとって実習で役立つと考えられた。冊子の「患者さんとのコミュニケーション」「実習場でのコミュニケーション」について共通したカテゴリーは、良かったところでは【例の記載】【読みやすさ】【説明の記載】【役

立つ】であった。要望では【これからも必要】が挙げられていた。学生が経験する場面のコミュニケーションの例が具体的な言葉づかいで、説明と一緒に記載されていることで、定型的な表現を学習することができ、実習で活用しやすいのではないかと考える。特に、「実習場でのコミュニケーション」で、学生ができたと捉えるのは、病棟スタッフへの【挨拶】が多く挙げられていた。慣れない環境で初めて実習する学生にとって、挨拶といった礼儀を学ぶのに役立つと考える。

冊子の課題については、学生が知識や判断力を活かし、対象や状況に応じて、緊張をコントロールして、コミュニケーションをとるためには、冊子だけでは足りないと考える。学生ができなかったと捉えていたのは患者との【会話のやりとり】や看護師への【報告】が多く挙げられていた。対人関係を形成・維持する能力であるソーシャルスキルの生起過程モデルでは、さまざまな知識が体制化された社会的スキーマを用いて、相手の反応を解釈し、対人目標や対人反応を決定し、感情をコントロールして、対人反応を実行するプロセスが紹介されている⁵⁾。看護学生は未だ学習途中で、知識や経験も少ないため、緊張が強く、対象や状況に応じたコミュニケーションをとることが難しいこともあると考える。コミュニケーション能力を高めるためには、学生の学習状況やコミュニケーションプロセスに目を向ける必要があると考える。

本研究では、SSTにおいて教示される具体的なスキルや説明を参考にして冊子を作成した。SSTでは、学習者のスキルをアセスメントして、モデリングやリハーサル、フィードバック等の技法を取り入れてトレーニングが行われる^{4),5)}。看護学生を対象としたSSTでは、参加者の感想から、対象理解が深まり、対応方法が学べ、やる気や自信につながる事が述べられていた¹¹⁾。学生の実習でのコミュニケーション状況を踏まえ、より効果的な教育方法について、今後の検討が必要である。

VI. 結 論

本研究の目的は、基礎看護学実習でのコミュニケーション状況を把握し、実習でのコミュニケーションに関する冊子の有用性や課題を検討することである。質問紙調査の自由記述から、冊子について良かったところでは【例の記載】【読みやすさ】【説明の記載】等の

カテゴリーが得られた。コミュニケーションの例と説明を記載した冊子は、実習で役立つと考える。しかし、基礎看護学実習での学生は、緊張が強く、状況に応じたコミュニケーションをとることは難しく、今後、他の教育方法も取り入れることが必要である。

謝 辞

研究を行うにあたり、ご協力いただきました学生の皆様に心より感謝致します。研究の過程で多くの助言をいただきました皆様に感謝致します。

本研究はJSPS 科研費18K10206, 25463312の助成を受けたものです。

引 用 文 献

- 1) 大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会 (2017), 看護学教育モデル・コア・カリキュラム～「学士課程においてコアとなる看護実践能力」の修得を目指した学修目標～, http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/078/gaiyou/_icsFiles/fieldfile/2017/10/31/1397885_1.pdf, 参照日 2018.12.27
- 2) 市川和男, 牧野由加里, 竹村真由美, 小竹久実子, 佐藤弘子 (2014), 文献からみた臨地実習における看護学生のコミュニケーションの現状と課題, 看護教育研究学会誌, 6 (2), 19-24
- 3) 早川真奈美, 古田雅俊, 中村恵子 (2016), 早期体験実習の意義に関する文献検討, 中京学院大学看護学部紀要, 6 (1), 49-62
- 4) 西園昌久編著 (2009), SSTの技法と理論:さらなる展開を求めて, 金剛出版, 東京都
- 5) 相川充 (2009), 新版 人づきあいの技術 ソーシャルスキルの心理学 セレクション社会心理学20, サイエンス社, 東京都
- 6) 松崎有子 (2005), もう実習で困らない!患者とのコミュニケーション:押さえておきたい基本と患者の個別性に合った対応術, 医学芸術社, 東京都
- 7) 野崎真奈美, 田中美穂, 蜂ヶ崎令子 (2009), KANTAN 看護の実習マナー, 医学書院, 東京都
- 8) 阿部テル子, 工藤千賀子, 渡部菜穂子, 工藤英優子 (2017), 基礎看護学実習における学生の対受持患者コミュニケーション展開-学生と患者の言語的・非言語的表現とその受け止め方の分析から-, 弘前学院大学看護紀要, 12, 13-25
- 9) 工藤千賀子, 渡部菜穂子, 阿部テル子 (2017), 看護学部1年次生の初回臨地実習時のコミュニケーション展開における発話の特徴-再構成記録の分析-, 弘前学院大学看護紀要, 12, 1-12

- 10) 吉田理恵, 松尾太加志 (2015), 臨地実習における看護学生と指導看護師間の医療コミュニケーションの特徴, 北九州市立大学文学部紀要, 22, 1-16
- 11) 阿部智美 (2013), ソーシャルスキルトレーニングの技法を用いた看護学生のコミュニケーショントレーニングの効果, 北日本看護学会誌, 16 (1), 43-50

THE USEFULNESS AND TASKS OF BOOKLETS ON COMMUNICATION IN FUNDAMENTAL NURSING PRACTICE

Tomomi ABE¹⁾, Megumi ISHIDA¹⁾, Yasuko KOUYAMA¹⁾

Abstract: This study aimed to understand communication situations nursing students face in fundamental nursing practice and examine the usefulness and tasks of communication booklets used in it. We developed a booklet describing the illustration and explanation of communication in clinical nursing practice, and distributed them to students before fundamental nursing practice starts. We then distributed questionnaires to 73 students after the class and got responses from 47 students. Their free description of each answer showed that they considered that the mentioning of examples, readability, and the explanation were the good points of the booklet. It was considered that the booklet showing the illustration and explanation of communication was useful in clinical nursing practice. Yet, many students attending the class were nervous and could not communicate in a specific situation appropriately, suggesting that it is necessary to incorporate other educational methods into the program in the future.

Key words : nursing student, fundamental nursing practice, communication, booklet

1) Faculty of Nursing, Hirosaki Gakuin University

TEL : 0172-31-7100, FAX : 0172-31-7101, E-mail : tomomi@hirogku-u.ac.jp